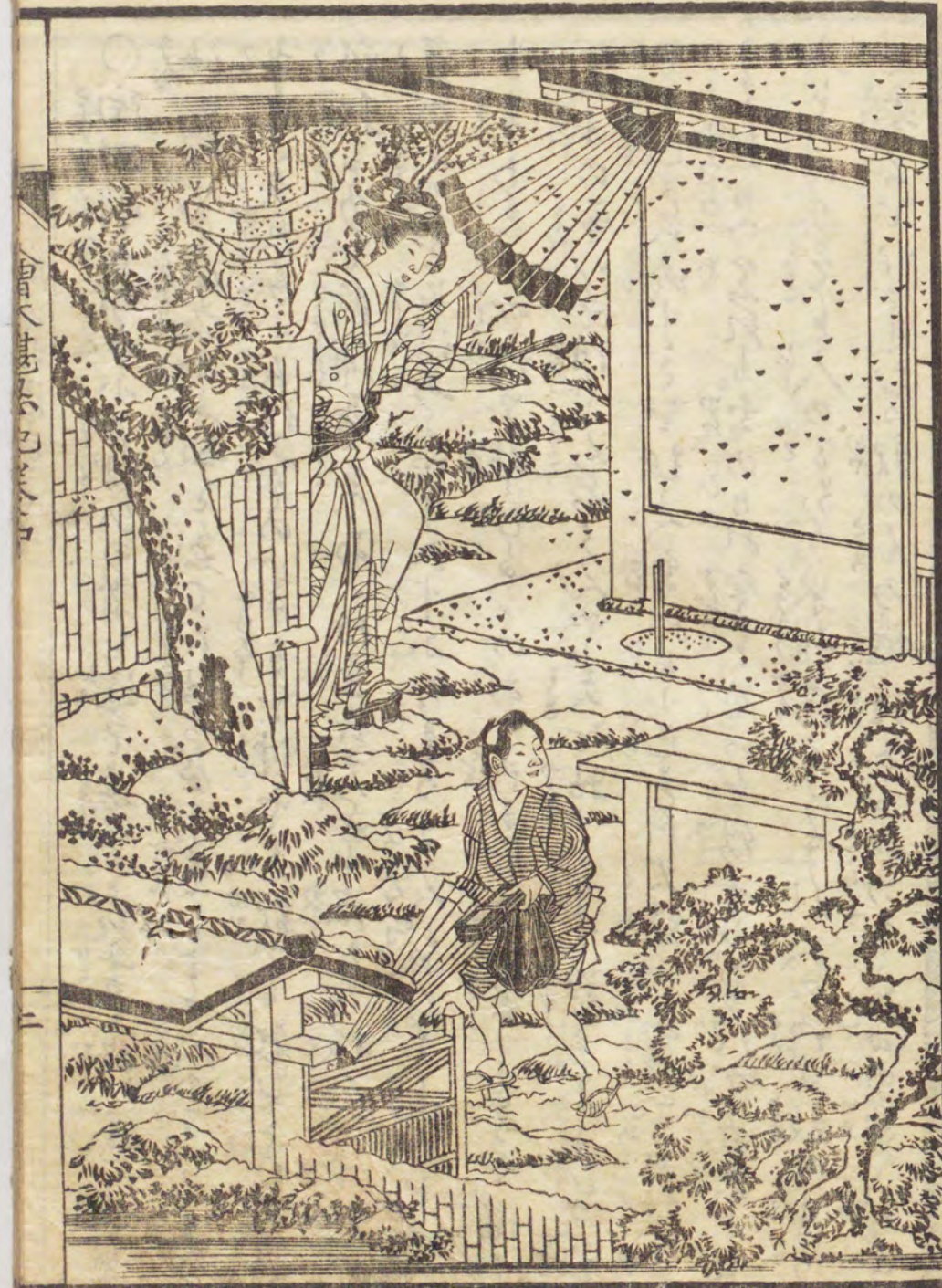




曾入其門已



奴僕
を
つ
る
居

糸本坊忍記巻中



此の事其邊を仕るされずへ辛苦名様と思んで仕まうへ
 衣被をぬんぬがうばや。物を我ふふまひふふとそりぬの物まで
 剥くふ日以仕へ辛苦を算とらふもの



忠臣蔵
 大坂の陣
 馬を
 返す

維新地忍記巻中

六

たゞしやきいそげの戦ふ付死とそ原の妻子一層も別れを
告げぬとて戦場ふしつ果の妻をばさるやあちあひつを
死して遠く住まうとて出るをばいばふおひつをよきけ
中と遠くうけよと後切の病のあをせんと思ふと今一は
が命ををけの戦ふふしつ病をせんと思ふと有るはあ
涙を流しあふと病をせんと思ふと有るはあ
あふと千の金銀をせんと思ふと有るはあ
己今て及戦場ふしつ死をせんと思ふと有るはあ
戦場ふしつ不効病ふしつ死をせんと思ふと有るはあ
○奈々村大副徒四位下大中長教基の親王に御免のてれ
御免のてれ

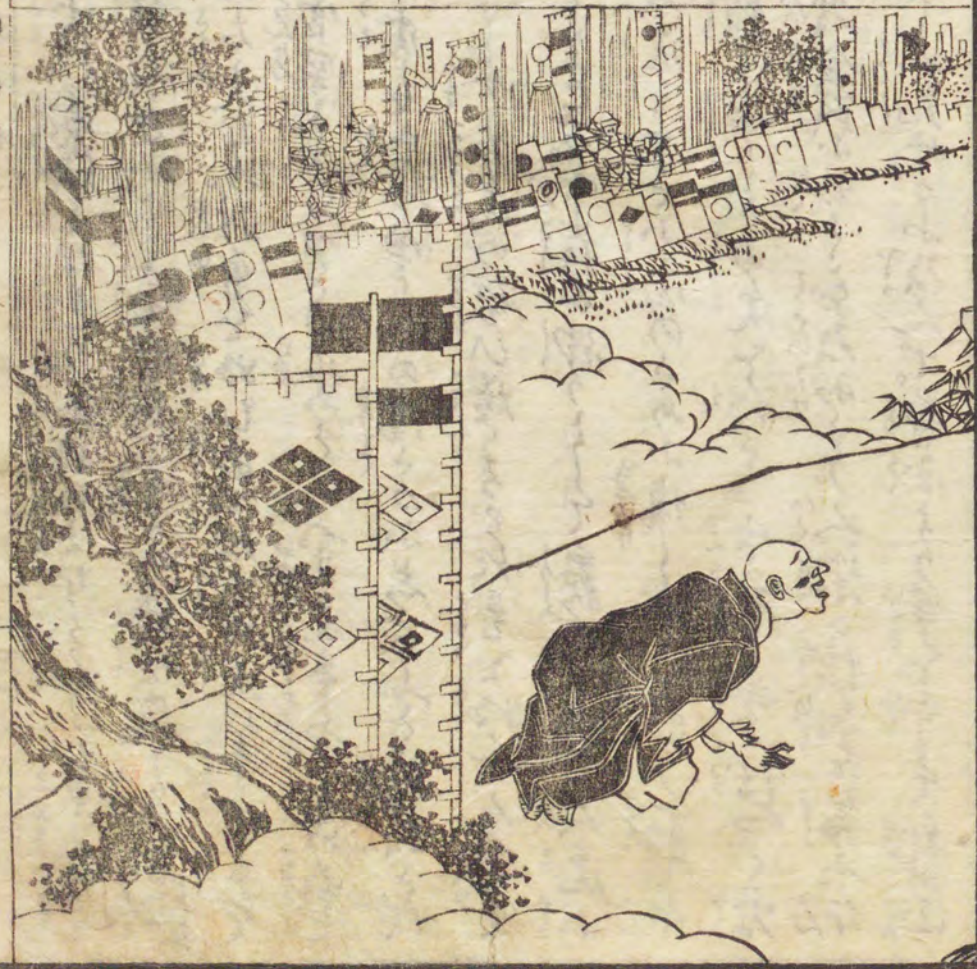


大中長教基
親王に御免の
てれ

多し無慮の茶乃中村
 が為帽子を扇うを
 ふちう。中村もも
 せとお笑ひ士のけ
 てい法と付教をな
 もの好もともはを
 ばれも又死人銭の
 為一大事わんを
 御用ふまんと厚ふ
 御多むるは極るを
 けをもん終て先す



中村は修和を
 らふぬ封人米を
 倭い人信を皆
 が軍を中村
 貴小郎中修和
 中村は修和を
 らふぬ封人米を
 倭い人信を皆
 が軍を中村

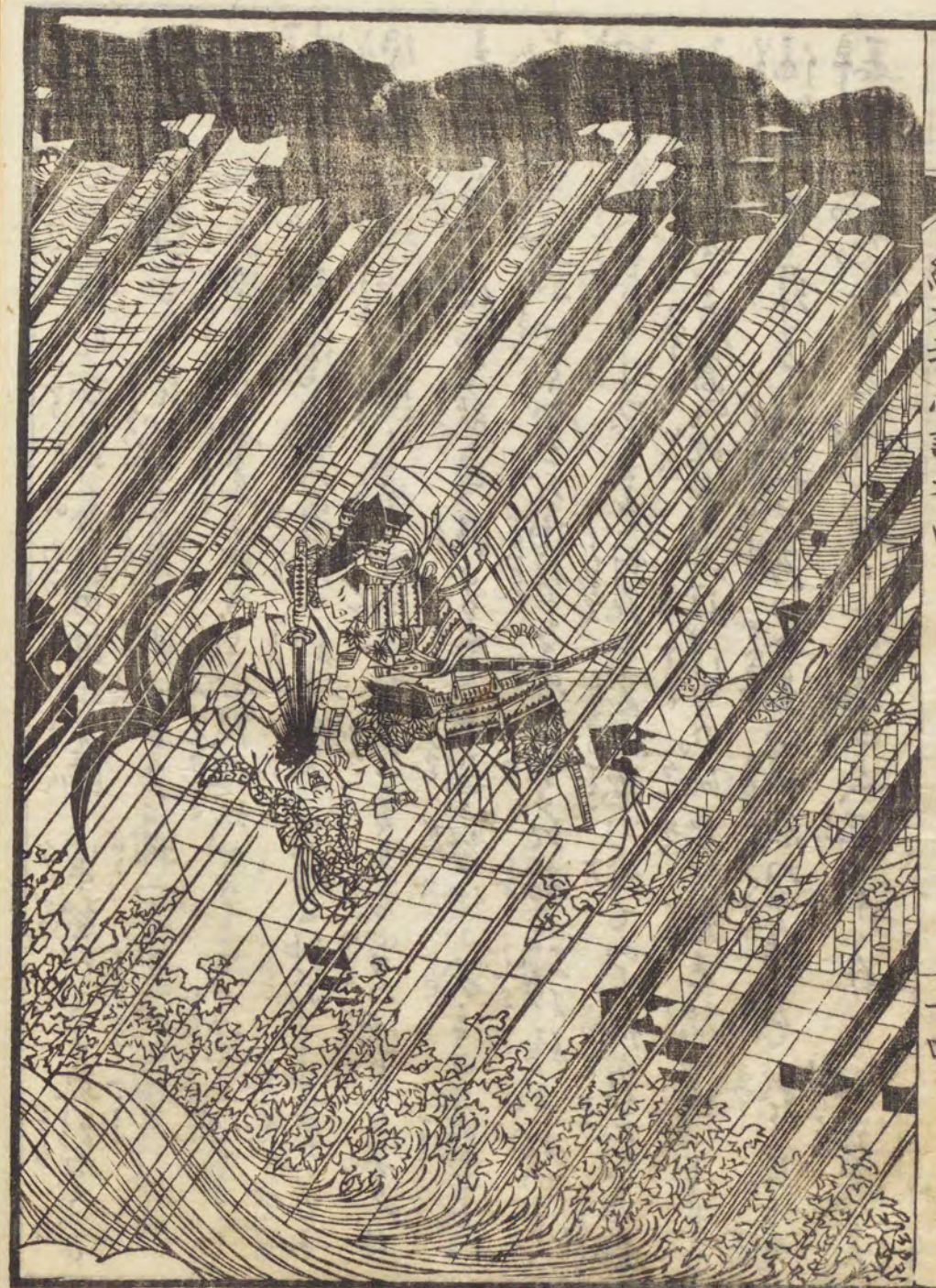
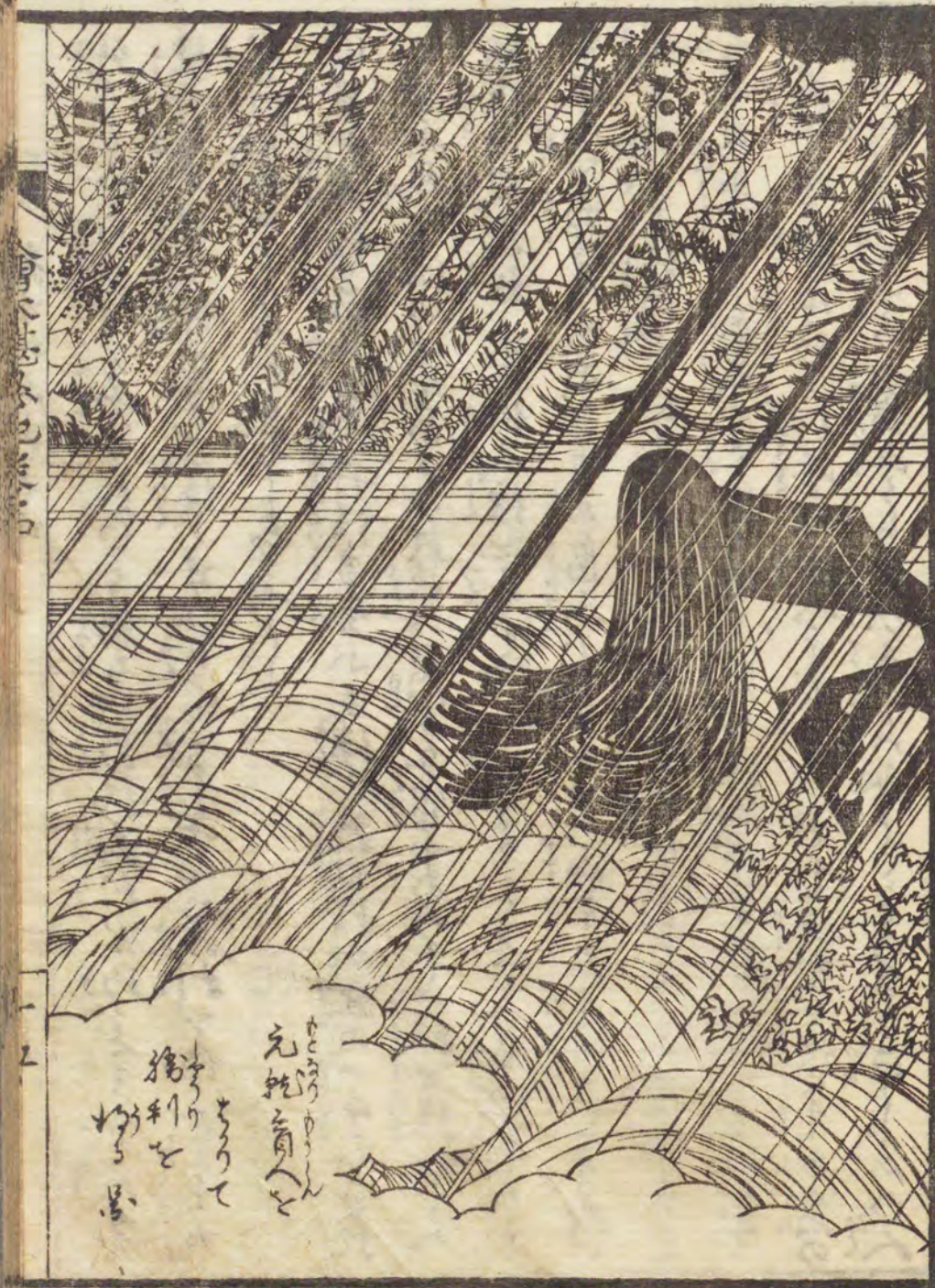




十
 子
 一
 虎
 子
 一
 虎
 子

繪本堪忍記卷中

十二



て退き出でき方もなりけり。後ふ佐助が勢いといふ款を待て付死せん
 こゝろをいはれ制しつゝ軍のなりし款を落し款は落さるゝ定
 まれ来りて一度款は落されしとて款を失ひて武の端をとりけり
 がゆゑなりし款を返さしとて人ぞとて武の本意なりとて例
 伏本のうつふ返さしとてある款替もや返さるゝ大場二部系親
 一書ふや本はよふけりしとて必し佐助にけり中ふ返さしとて
 押さるゝと下知く々中ふ梶原平三兼時うつふの中ふ登とて
 しがゆゑもいふ引返して中ふ出たの中ふ何人もあらずとて
 他をさしとて中ふをうつゝ中ふ佐助にけり中ふ返さしとて
 まかづねく落し中ふをうつゝ中ふ佐助にけり中ふ返さしとて
 中ふをうつゝ中ふ佐助にけり中ふ返さしとて